

様式（評価機構フォーマット版）

平成29年度
自己評価報告書

（専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版）

平成30年 5月8日

ドレスメーカー学院

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	平成29年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>創立者・杉野芳子の建学の精神に基づき、下記の3点を本校の教育理念と定め、各科の定めたファッション業界のプロ育成を目標とする。</p> <p>①挑戦（チャレンジ）の精神 あらゆる物事に挑戦し、経験しようという気持を育てる。感化させるために、企業や業界のスペシャリストと連携をとり、時代の変化を技術や教育に反映させる。</p> <p>②創造する力 デザインのクリエイション教育だけでなく、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などクリエイション能力を支える自己表現の教育を取り入れる。</p> <p>③自立（自己実現）する能力 身につけた技術によって自己実現する精神的な力を育てる。また、昨年度達成した就職率100%を継続できるよう努力をする。</p>	<p>●職業実践専門課程の申請 職業実践専門課程の申請を服飾造形科とファッションビジネス科が行う。</p>	<p>●職業実践専門課程 アパレル技術科、高度アパレル専門科については、平成28年9月に申請をし、平成29年2月24日付で文部科学省より認定された。 今年度は、服飾造形科とファッションビジネス科の申請を平成29年9月に行い、平成30年2月27日付で文部科学省より認定された。</p>	<p>●職業実践専門課程 アパレル技術科、高度アパレル専門科の2学科においては、認定に至ったが、服飾造形科、ファッションビジネス科の申請を行うことによって審査が通過すれば2年制以上の4学科すべてが認定されることになる。 認定の先には、第三者評価へと準備を行う必要がある。</p>

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>●教育理念・目的 建学の精神と教育理念は、下記の3点と定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①挑戦（チャレンジ）の精神 ②創造する力 ③自立（自己実現）する能力 <p>※詳細は「学校の教育理念・目標」（前頁）に記載</p> <p>●育成人材像 服飾造形の基本を理解した上で創造力を持ち、挑戦する心を常に忘れない自立した聡明な人材を目指し、具体的には各科の定めたファッション業界のプロを育成することを目標とする。</p> <p>○各科の育成人材像</p> <p>＜服飾造形科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売職（服作りの技術を学ぶことで、着心地や服の価値を伝えることのできる販売員）、縫製職、アパレルデザイン科への進学（デザイナー） <p>＜ファッションビジネス科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売職（ファッションと流通機構を理解し、IT技術と提案力のある販売員） <p>＜アパレル技術科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パタンナー <p>＜高度アパレル専門科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合職、企画職、デザイナー（クリエイション能力とビジネス知識を兼ね備えた企業デザイナー） <p>＜アパレルデザイン科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイナー（造形知識に裏付けされた、豊かな感性と表現力のあるデザイナー） 	<p>学園の創設者杉野芳子は、取り組みの全てに探究心とチャレンジ精神があり、日本の服飾文化を切り開いたパイオニアスピリットに溢れていた。その根底には、服飾の知識や技術のみならず、時代を読む視点を学び、創造する力を持ち、物事の本質を捉える力を養う。</p> <p>本学院の指標である「いい服には法則がある」に沿って、いい服とは何かということ自身を問い続けて、まず、基本とする「基礎力の充実」を図っている。基本となる技術と知識を習得することによって、その先のあるクリエイション能力を確かなものにすると考えからである。“技術のドレメ”といわれる教育が特徴である。</p> <p>●育成人材像 歴史に残るデザイナーであり、ファッションのパイオニアである創立者杉野芳子は、本学院の目標とする育成人材像である。 1926年創立以来91年間、創立者の精神を受け継ぎながら、常に時代に対応した技術力と感性を兼ね備えた人材を育成している。</p> <p>各学科の育成人材像が明確である。</p> <p>業界の求める人材育成ができるよう、基礎教育の充実と共に、職業実践のカリキュラムを毎年検討しレベルアップを図っている。</p> <p>常に個性を尊重する育成を心がけ、一人ひとりの才能を伸ばす教育に取り組み、卒業後の就職・進路などに反映させている。</p>

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営は、毎年度策定している事業計画に基づいて実行している。</p> <p>運営方針を含めた事業計画は、第 2 期中期計画の目標との関連性も含めて年度ごとに「理事会」「評議員会」において審議され、決定している。</p> <p>その事業計画は、4 月に開催される学園の全教職員が参加する「全体会議」において周知徹底している。</p> <p>設置法人は、私立学校法及び寄付行為の規程に基づき「理事会」「評議員会」を開催し、議事録を学園事務局で保管している。</p> <p>学園全体の取組みとして平成 16 年から諸規定が整備されている。</p> <p>本学院全体の運営に関わる「自己点検・評価委員会」「学校関係者評価委員会」「学生募集実行委員会」は、理事長も加わり協議決定して実施する。</p> <p>教務に関する意思決定は、院長、院長補佐で構成される「執行部」で議案を検討し、「学科長会議」「カリキュラム会議」を経て、検討した内容を「教育課程編成委員会」で討議され、決定する。理事長決裁が必要なことは、決裁を受ける。</p> <p>行事等の運営は、「執行部」で検討した上で、「学科長会議」「主任会議」を経て決定し、その後「職員連絡会議」において周知徹底している。ただし、学生主体の行事は、それぞれの会議組織においての意思決定もある。</p> <p>学生募集においては、教員と入試広報課が連携し、「学生募集実行委員会」にて検討を重ねている。</p> <p>事務局の運営は、「総務部」「経理部」「入試広報部」「教務部」等各部署で会議が開かれており、理事長のリーダーシップにより管理運営の改革、改善が図られている。</p> <p>学生指導については、教員の他「学生部」「就職部」がそれぞれの目的に応じて行っている。</p>	<p>本学院の運営方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の充実（学生募集・対外アピールのための活動） ・カリキュラムの充実（授業内容・計画・指導方針） ・就職の充実（就職率 100%の維持） ・服飾専門学校としての独自性の確立 ・教員の資質向上 <p>学園全体の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸規程の整備 ・事務処理体制の充実強化 ・情報セキュリティの強化 ・情報の開示 <p>平成 29 年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業実践専門課程の申請（服飾造形科・ファッションビジネス科） ・産学連携授業の充実 ・ドレメサマーセミナーの実施 ・ドレメキッズスクールの開催

最終更新日付

2018年 5月8日

記載責任者

布矢 千春

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院の教育理念の基本である「基礎力の充実」を念頭に置き、各学科の特徴を出したカリキュラム編成になっている。</p> <p>平成 18 年 3 月に「ドレスメーカー学院自己点検・評価委員会」を発足させて以来、毎年、常勤・非常勤の教員に対する授業アンケートや教員間での授業見学等を実施し、改善策等を見出して教員一人ひとりの意識も向上している。</p> <p>教員の専門性を高めるために各種研修会への参加、研究発表への取り組み意識は向上している。常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集する努力も必要と考えている。</p> <p>資格取得においては、必修の検定試験を設けて合格に向けて授業を行っている。選択の検定試験に対しては、選択授業で行っているものと、資格検定試験受験予定一覧を渡し、情報提供をして受験を促している。</p> <p>教員間の連携を図る上で、各種会議を定期的に行い、検討、改善を行っている。</p> <p>平成 28 年度に教育課程編成委員会が発足し、常に業界のニーズにあったカリキュラム実施に向けて検討できる体制が整っている。</p> <p>アパレル技術科と高度アパレル専門科は平成 28 年度、文部科学省より「職業実践専門課程」に認定され、服飾造形科とファッションビジネス科は、平成 29 年度 9 月に申請を行い、平成 30 年 2 月 27 日付で認定された。</p>	<p>資格取得においては、本学院が検定試験会場にもなっており、日本ファッション教育振興協会の検定試験では、本学院の教員が企画委員も努めている。</p> <p>全学的に資格取得に対して前向きな姿勢で取り組んでいる。</p>

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>ファッション分野における職業教育に特化した教育内容で専門知識や技術を修業年限に修得し、ファッション産業の希望職種に就職できる人材の育成を目標とする。</p> <p>本学院は担任制のため就職部と連携を取り、年間 11 回行われる「就職ガイダンス」への出席や「進路調査カード」の記入を徹底している。教職員が密に連携をし、就職支援を行った結果、平成 27 年度、平成 28 年度と 2 年続けて目標の 100% となり、今後も継続できるよう支援の強化を図っていく。</p> <p>資格取得に関しては、各学科において必要とされる検定を必修とし、授業内で取り組むと同時に、業界で活躍しているプロに特別講義を依頼し検定対策の向上に努めている。資格取得者とその推移をデータ化し全国水準と比較しており、同等またはそれ以上の合格率を収めている。</p> <p>アパレル業界を中心に、さまざまな分野で活躍している卒業生の状況を把握し情報交換を行うことで、学内のイベントなどへの協力を依頼している。また在校生が卒業生と接することは、就職への意欲向上につながっている。</p>	<p>就職対策テスト、面接対策講座、履歴書講座等の実施。</p> <p>本学院全体で資格取得に取り組み、さらに各種検定の会場校となっている。</p> <p>卒業生の状況把握には、Facebook や SNS などのソーシャルメディアを活用している。具体的に、ドレメの Facebook・インスタグラムは編集室が更新を担当し、さらに各教員も個人のインスタグラムやラインなど SNS を利用して、日頃より情報交換をしている。卒業生の情報を得ることで、イベント協力を依頼し、DMJ 会誌等に掲載して在校生に紹介している。</p> <p>さらに卒業後各種コンテストの受賞状況等は、卒業年次担任をとおして学院に報告している。</p>

最終更新日付

2018年 5月8日

記載責任者

須澤 麻紀

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が有意義な学生生活を送るためには、入学から卒業までを通して学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要である。</p> <p>就職・進学指導に関する体制は、就職部が主導のもと教員との連携で就職支援を行っている。就職ガイダンス、就職対策講座、就職対策テストなどの実施、学内企業説明会の開催、キャリアコンサルタントを配置し卒業年度生全員の個別相談を行っている。その結果、就職率のアップに繋がっている。</p> <p>中途退学者率を極力減少させることを目標に担任・保護者・学生相談室などとの連携を密にして退学に結びつきやすい状況を的確に把握し、対応できる指導体制を強化する。</p> <p>専任のカウンセラーを置いた学生相談室は、早くから開設しており、担任、学生部、学生相談室、医務室の連携のもと迅速に学生の悩みの相談に応じている。しかし、直接相談できない、あるいは帰宅後体調不良で相談したい学生の対応のため、平成 26 年 4 月より 24 時間健康相談や医療機関の情報などを電話相談が無料で受けられる「杉野学園ヘルスサポートセンター」を設けた。このシステムは、保護者も利用できる。</p> <p>留学生の支援は、学生部に留学生担当を置き、学生生活上の悩みや入国管理局での在留資格の継続・変更などの相談にも対応している。留学生との面談などを行い留学生の要望に沿ったきめ細かい支援に努めている。</p> <p>学生の健康管理体制は、看護師常駐の医務室を開設し、毎年、春には全学生対象に定期健康診断を実施、診断結果によっては、医務室において個別指導を行っている。また、上記にも記したが 24 時間電話で健康相談が受けられるシステムを導入している。</p> <p>学生の経済的支援は、奨学金を必要としている学生が申込の機会を逃すことのないように、奨学金貸与希望者説明会を実施している。また、担任を通して新しい情報をその都度周知している。また、学園独自の奨学金制度や学費クレジットを導入し、学業を継続しやすいようにしている。今後も毎年見直し、社会情勢にあった支援を検討していきたい。</p> <p>遠隔地出身者のために学生寮を設けている。また、入寮できなかった学生には、民間の学生会館や不動産会社と提携したアパート・マンションを安価で紹介している。</p> <p>入寮した学生には、館内規則やルールのパンフレットを配布し指導している。</p> <p>課外活動については、学園祭、卒業制作発表会等を課外活動と位置付けて、各クラスの有志からなる実行委員が企画・運営をしている。また、ボランティア活動として地域のイベントなどに積極的に参加させている。</p> <p>保護者会を春と秋に開催している。保護者との連携は充分に図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 短期大学部・大学が併設されているため、就職部、教務部、学生部は学園として存在し、全ての学生を管轄している。そのため、課外活動などには流動的に対応している。 * 精神的あるいは身体的悩みを抱えている学生対応のために、24 時間対応できる電話健康相談システム「杉野学園ヘルスサポートセンター」を設けている。 * 経済的支援としては、入学時から経済的負担を軽減させるために、平成 26 年度より新入生対象の「杉野学園新入生奨学金」「同窓生特別免除制度」「全国ファッションデザインコンテスト奨励金」制度を新設、その他従来からある「杉野学園奨学金」の採用枠を増やすなど本学独自の奨学金制度の充実を図っている。平成 29 年度からは、突然の家計急変による授業料未納者対応のために、新たに授業料減免等制度を設けることとした。 * 本学院の学生寮には、管理人が常駐し、学生の生活面の指導、支援を行っている。また、学生が作品制作できるように作業室を設け、洋裁台・ミシン・ボディなどを設置しハード面においても支援している。 * 中途退学防止策のひとつとして学生が相談しやすいオフィスアワーを設けた。 * 緊急時の連絡網を作成し、保護者との連携体制を整えている。 * 「東京新卒応援ハローワーク」と連携して留学生の就職支援を行っている。

最終更新日付

2018年 5月8日

記載責任者

柴田 弘子

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備は、教育の必要性に応じて随時検討し、整備充実を図っており、それらのメンテナンスにも十分配慮している。</p> <p>ファッション関連はもとより、内容の充実した図書館を有しており、卒業生には年間利用できるカードを有料で発行している。</p> <p>学外実習・インターンシップ・海外研修等については、各学科の特色を出し、学科ごとに行っており、充実した内容で高い成果を上げている。</p> <p>防災体制については、災害（地震・火災等）対策本部制を設け、災害に対する訓練を教職員及び学生を含めて行っている。</p> <p>全ての校舎の耐震工事は完了し、AED（自動対外式除細動器）も設置されている。</p> <p>防災体制の充実と保険等も整備されており、緊急時の備えは万全ではないかと思われる。</p>	<p>CG 及び CAD のパソコンは、授業において1人1台揃っている。</p> <p>ミシン、その他の造形作業道具類が充実している。</p> <p>ギャラリースペースは学内の学習成果を展示するだけでなく、卒業生の発表の場として割引価格で利用できるようにしている。</p> <p>清掃が行き届いており、クリーンな教育環境になっている。</p>

最終更新日付

2018年 5月8日

記載責任者

渡邊 千佳子

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集は、学校経営の根幹であるため入り口から、在学中の教育内容、学生支援、出口である就職支援までの全過程が学生募集の一環と捉え、教員をはじめとして各部署すべての教職員の連携が必要である。</p> <p>高等学校への情報提供に関しては、入試広報部の高校訪問担当者が中心となって東京、神奈川、千葉、茨城、埼玉、群馬、栃木の高校を重点に訪問している。全国の高等学校の情報が掲載されている AOL システムを導入して、高校情報の把握や訪問報告書も教職員が共有できようとしている。</p> <p>また、教員による高校訪問も強化し、高校生に直接接することができる出張授業や校内ガイダンスにも力を入れている。</p> <p>本学院のイメージをタグライン化し、「いい服には法則がある」として広く周知し、認知度を高めるために学校案内、DM、新聞雑誌広告などの見直しは、毎年高校生の動向を見つつ行っている。</p> <p>入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。入学後の学生に対し、新入生アンケート、卒業アンケート、授業評価アンケートを実施し、授業改善を図っている。</p> <p>学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、適切な算定を行っている。</p> <p>定員充足のために教育の内容の充実、オープンキャンパスの工夫に一層努力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 校内ガイダンスの参加を強化 * 高校訪問の強化 * 出張授業の強化 * オープンキャンパス、体験入学の工夫（個別相談への誘導の強化） * 本学院の認知度アップのため高校生が利用している SNS を活用した広告の工夫

最終更新日付

2018年 5月8日

記載責任者

柴田 弘子

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人杉野学園の事業活動収支について、平成 26 年度以降は支出超過が続いている。これは、本学の収入の大部分を占める学納金の減少によるところが大きい。</p> <p>貸借対照表における財政的な安定度をみる純資産構成比率は直近の平成 28 年度 74.1%（目安の 50%以上）で比較的安定しているものの、経常的な収支のバランスを示す経常収支差額比率はマイナスとなっており、日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標ではイエローゾーンの予備的段階に区分されている。</p> <p>この中でも、本学院自体の経常収支差額比率のマイナスは極めて大きい。</p> <p>平成 28 年 3 月に第 2 期中期計画を策定した。本学院では、この中期計画に沿って平成 32 年度までに入学定員を確保し、本学院自体での収支均衡を図る。</p>	<p>赤字の原因については、高い人件費依存率が考えられる。これは、人件費が高いというわけではなく学生数が減少しているにもかかわらず、実習系の専修学校やクラス編成の理由で教員・職員を減らせていないことが原因である。</p> <p>授業内容の改善向上を進め、学生募集活動をより強化し、入学者の増加を図ることによって、事業活動収支を改善することが急務である。</p>

最終更新日付

2018年 5月8日

記載責任者

三觜 守

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正があると速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。</p> <p>また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、主任会議、職員全体会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。</p> <p>学園では、平成 17 年 4 月 1 日の個人情報の保護に関する法律の前面施行に伴い、その保護のための対策として「個人情報の保護に関する規程」を定めた。</p> <p>個人情報の重要性を認識し適切に取り扱うための研修やミーティングを教職員対象に実施し、法令に則り各部署定められた対策をとっている。しかし、スマートフォンや SNS の急激な普及により漏洩につながる事件事故が多くなっている。今後は、一層、個人情報の保護・管理には厳重にあたり、漏洩がないように教職員はもとより学生に対しても啓蒙活動を実施し、意識向上を図る。</p> <p>社会規範に係る法令の遵守や学内諸規則の遵守については、全体会議や主任会議等において、理事長、院長から機会あるごとに注意を喚起し、リーガルマインドの浸透に努めている。</p>	

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>社会貢献、地域貢献により社会とのつながりを深めることは、学生を教育するうえでも大切なことと捉えて推進している。</p> <p>品川区、目黒区の様々なイベントに積極的に参加している。</p> <p>また、地域の小学生を対象にドレメキッズスクールを開催して、本学院の特色である服飾のものづくりの楽しさを知ってもらう企画を実施している。</p> <p>ドレメサマーセミナーでは、本学院の教員が研究発表を行い、高等学校の教員や服飾教育に携わる指導者などの研修の場として公開している。</p> <p>高等学校に本学院の教員を派遣し出張授業を実施して高専連携を図っている。</p> <p>また、学園が主催する「全国ファッションデザインコンテスト（一般の部）（高校生の部）」は、今年度 55 回を迎え、学内の施設で国内外から応募された作品の中から優秀作品をショー形式で発表。高校生の部は、展示で発表して広く公開している。</p> <p>学園の施設である体育館は地域の企業のクラブ活動の場として貸し出している。またギャラリーU、図書館、博物館も卒業生や一般の方も利用できるようになっている。</p> <p>国際的な感覚を身につけるためには、海外研修の実施や海外の教育機関との交流が大切と考えている。そのためニューヨークの FIT で学ぶ研修旅行を企画し学生の参加を促している。そのほか中国の専門学校から研修生を受け入れている。留学生受け入れのために外国人留学生入試要項を作成し情報発信を行っている。</p> <p>身近なボランティア活動として学内に回収場所を設けてエコキャップ運動に参加している。また品川区のエコフェスティバルに参加させて、ボランティア活動の意義についての意識付けを行っている。</p>	

最終更新日付

2018年 5月8日

記載責任者

柴田 弘子